優良住宅部品性能試験方法書

Methods of Testing Performance of Quality Housing Components

郵便受箱

Mail Boxes

BLT MB:2026

２０２６年４月１５日公表・施行

一般財団法人 ベターリビング

Ⅰ．性能試験項目

優良住宅部品認定基準において、試験により性能等を確認する項目及び試験方法等は下表によるものとする。

性能試験項目名	性能試験方法	備考	頁
1．固定強度試験	BLT MB-01（別表 1）		1
2．扉の強度試験	BLT MB-02（別表 1）		2
3．施錠強さ試験	BLT MB-03（別表 3）		3
4．部材の耐食性	JIS K 5600-7-1:1999（塗料一般試験方法）第 7 部:塗膜の長期耐久性-第 1 節:耐中性塩水噴霧性		
5．耐塩水性（浸せき法）	JIS K 5600-6-1:2016（塗料一般試験方法）第 6 部:塗膜の化学的性質-第 1 節:耐液体性（一般的方法）「7 方法 1（浸せき法）7.4 手順Ａ」		
6．付着性（クロスカット法）	JIS K 5600-5-6:1999（塗料一般試験方法）第 5 部:塗膜の機械的性質-第 6 節:付着性（クロスカット法）		
7．耐衝撃性（デュポン式）	JIS K 5600-5-3:1999（塗料一般試験方法）第 5 部:塗膜の機械的性質-第 3 節:耐おもり落下性「6．デュポン式」		
8．鉛筆硬度（鉛筆法）	JIS K 5600-5-4:1999（塗料一般試験方法）第 5 部:塗膜の機械的性質-第 4 節:引っかき硬度（鉛筆法）		
9．塗膜の耐候性	JIS K 5600-7-7:2008（塗料一般試験方法）第 7 部:塗膜の長期耐久性-第 7 節:促進耐候性及び促進耐光性（キセノンランプ法）	左記の何れかによる試験の実施	
	JIS A 1415:2013（高分子系建築材料の実験室光源による暴露試験方法）6.2「オープンフレームカーボンアークランプによる暴露試験方法」		
	JIS K 5600-7-8:1999（塗料一般試験方法）第 7 部:塗膜の長期耐久性-第 8 節:促進耐候性（紫外線蛍光ランプ法）		

Ⅱ．試験体

試験体の種別、形状、個数については性能試験方法で示すとおりとする。ただし、個数の下限は当財団の判断によるものとする。

また、試験体は認定申請時に提出された設計図書の図面、仕様書の内容と同一のものであるとし、差異のある場合は、追加試験の要請もあり得る。

Ⅲ．試験結果の提示

定量的に表示しうるものは図表化を図ること。また、外観視察については具体的に、何が、いつ、どのような状態になったのかを試験目的にそって簡潔に記述する。なお、試験体、試験装置は詳細図を、また試験結果を示すに有効な場合は写真を添付すること。

優良住宅部品性能試験方法書（郵便受箱）

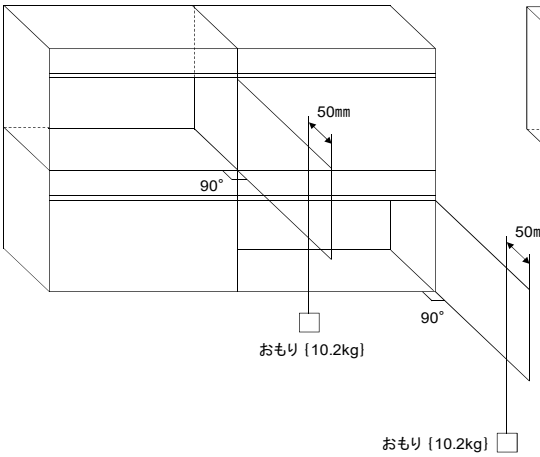
別　表	1

(1)	試験方法名称	固定強度試験		試験番号	BLT MB-01
(2)	関連要求項目および性能	1.2 安全性の確保 1.2.1 機械的な抵抗力及び安定性の確保 a)郵便受箱の固定強度			
(3)	試験の目的	底板及び棚板に等分布荷重を加えた場合の固定部分の強度をチェックする。			
(4)	試験体	種別レベル	規格型：4戸組(2段2列)の壁付タイプを試験体とする 自由型：１製品を試験体とする	個数	1体
(5) 試験方法	(5-1) 概要	底板及び棚板に等分布荷重を加え、固定部分、接合部の状態をみる。			
	(5-2) 試験機 試験装置 測定装置	おもり（砂袋等）			
	(5-3) 試験体の前処理方法・条件	各社指定の方法により、試験体を建築躯体又はこれに相当する構造体に固定する。			
	(5-4) 試験方法の詳細	(1)規格型の場合は総荷重500N、自由型の場合は1戸分あたり150Nの荷重を底板及び棚板に静かに加える。 (2)載荷後24時間放置し、固定部及び接合部の状態をみる。			
(6)	試験結果の表示	固定部分及び底板、棚板との接合部分の状態を表示すること。			
(7)	判定基準	固定部分、底板、棚板に使用上著しい変形、ガタツキ及び脱落がないこと。			

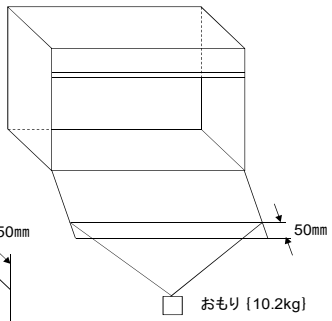
優良住宅部品性能試験方法書（郵便受箱）

別　表	2

(1)	試験方法名称	扉の強度試験		試験番号	BLT MB-02
(2)	関連要求項目および性能	1.2 安全性の確保 1.2.1 機械的な抵抗力及び安定性の確保 b) 扉の強度			
(3)	試験の目的	扉に荷重・外力が加わった場合の扉・丁番・取付け部の強度をチェックする。			
(4)	試験体	種別レベル	規格型：4戸組(2段2列)の壁付タイプを試験体とする 自由型：１製品を試験体とする	個数	各1体
(5) 試験方法	(5-1) 概要	扉に荷重を加え、24時間後の扉・丁番・取付け部の状態をみる。			
	(5-2) 試験機 試験装置 測定装置	おもり、ワイヤー			
	(5-3) 試験体の前処理方法・条件	各社指定の方法により、試験体を建築躯体又はこれに相当する構造体に固定する。			
	(5-4) 試験方法の詳細	図に示すように、横開きの場合は扉を手前に90°開き、下開きの場合は開き切った状態で先端から50㎜内側の位置に、100Nの荷重を加え24時間放置する。その後、扉・丁番取り付け部の状態を観察する。 なお、規格型については、図に示すように対角線上の2つの扉を対象とする。 ※上開き式の郵便受箱は試験対象外とする。			
(6)	試験結果の表示	扉・丁番・取り付け部の状態を表示すること。			
(7)	判定基準	使用上支障のあるガタツキ、変形、破損等がないこと。			



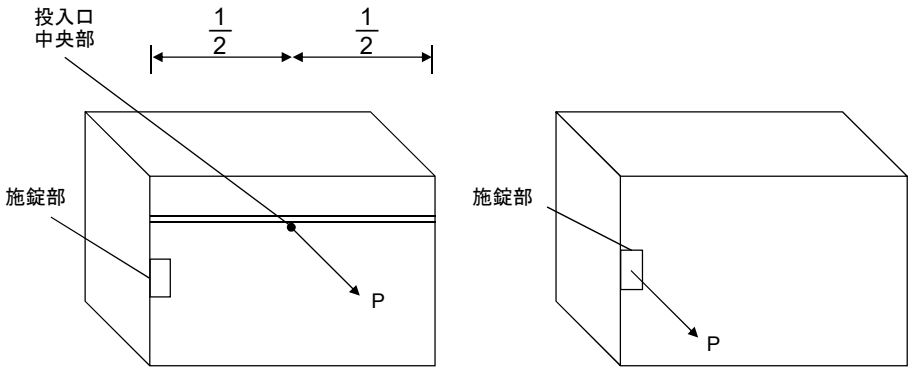
【例：横開きの場合（規格型）】



【例：下開きの場合（自由型）】

優良住宅部品性能試験方法書（郵便受箱）

別　表	3

(1)	試験方法名称	施錠強さ試験		試験番号	BLT MB-03
(2)	関連要求項目および性能	1.2 安全性の確保 1.2.1 機械的な抵抗力及び安定性の確保 c) 施錠装置の強さ			
(3)	試験の目的	施錠時において扉が開放する強さをチェックする。			
(4)	試験体	種別レベル	扉の部分に施錠装置のある試験体とする。	個数	各1体
(5) 試験方法	(5-1) 概要	投入口の中央部又は扉の施錠部に引張荷重を加え、扉が開放した時の最大荷重を求める。			
	(5-2) 試験機 試験装置 測定装置	加力装置			
	(5-3) 試験体の前処理方法・条件	各社指定の方法により、試験体を建築躯体又はこれに相当する構造体に固定する。			
	(5-4) 試験方法の詳細	図に示すように、手掛かりとなる投入口のある場合には投入口の中央部に、手掛かりのない場合には扉の施錠部に引張荷重を施錠した状態で加え、扉が開放した時の最大荷重を求める。  【手掛かりのある場合】　【手掛かりのない場合】			
(6)	試験結果の表示	(1)最大引張荷重（扉が開放した時の荷重） (2)扉が開放した時の状況			
(7)	判定基準	手掛かりとなる投入口のある場合は、最大引張荷重が300N以上であること。 手掛かりのない場合には、最大引張荷重が120Nであること。			